

# 03

## 情報社会を担うOKIならではの 情報セキュリティ

### お客様の信頼に応え、安心を提供する 情報セキュリティ体制の強化と セキュリティ対策を推進

#### OKIグループの 情報セキュリティの取り組み

企業活動にとって、情報システムの統合化やネットワーク化、モバイル化はもはや不可欠であり、それに伴う新しいリスクへ対応することの重要性が高まっています。たとえば、独立行政法人情報処理推進機構の統計によれば、コンピュータウイルスの届出は減少しているものの、不正アクセスやウェブサイトの脆弱性への攻撃は増加がみられ、これらの対策推進が必要になっています。

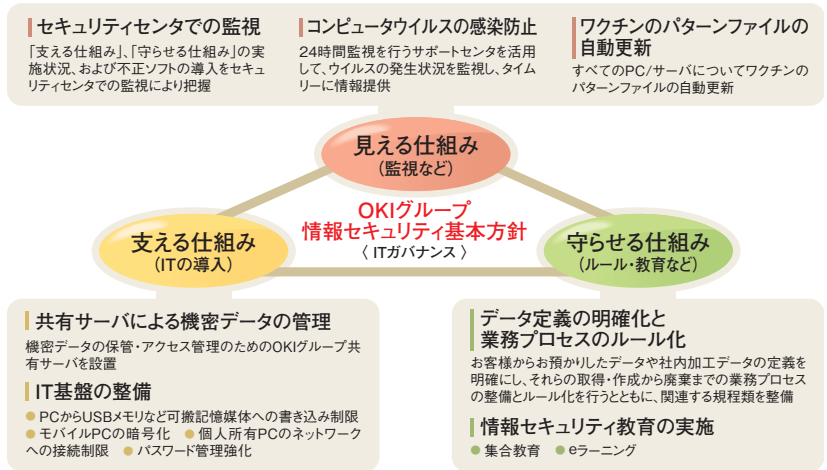
OKIグループは、情報セキュリティの重要性を早くから認識し、お客様一人ひとりに安心をお届けするために情報セキュリティ商品・サー

ビスを提供するとともに、自らの情報セキュリティマネジメントに取り組んでいます。2002年度には情報セキュリティ基本方針を制定し、下図に示す3つの仕組みでセキュリティ対策を推進してきました。また、社内情報システム構築・運用部門などにおいて、ISMS※の認証も順次取得してきました。

さらに2007年度には、情報漏洩対策を強化するため、推進組織となる情報セキュリティ委員会を設置し、体制強化を図りました。この情報セキュリティ委員会のもと、部門ごとに推進体制を構築して活動計画を策定し、施策を展開しています。

※ISMS：Information Security Management Systemの略。

#### ● 情報セキュリティの「3つの仕組み」



#### C o m m i t m e n t

OKIグループでは、変化・進化するIT技術の社内ITへの適用に合わせて、最適な情報セキュリティ対策を検討、導入しています。その一方で、情報セキュリティの確保を最終的に担うのは社員一人ひとりであると考え、それをふまえた体制構築を進めてきました。これまでの取り組みによって、各人のセキュリティ意識はかなり上がってきていると実感しています。このレベルを維持・向上させるために、継続的な教育はもちろん、現場での点検・モニタリングを効果的に実施していきます。

情報企画部長

猪崎 哲也

Tetsuya Izaki

## 情報セキュリティ施策の定着化と海外事業所への施策展開

2008年度は、2007年度に計画・実施した施策の定着化フェーズとして位置づけ、活動を展開しました。特に情報セキュリティ委員会事務局による現地実査(モニタリング)に注力し、遠隔地の支社や小規模拠点、グループ会社を対象に8ヶ所で実施しました。モニタリングにあたっては施策実施状況の確認とともに、最新の情報セキュリティ問題を社員に直接説明し、情報セキュリティ意識の向上も図っています。

また、海外事業所(中国)の情報セキュリティ施策展開を進めました。中国では、日本とIT環境が異なるため、中国で発生するコンピュータウイルスに適した対策ソフトの適用を開始しています。さらに、現地のヘルプデスク体制を整備してコンピュータウイルス感染時の支援を強化し、駆除率を向上させました。

## お取引先のセキュリティ意識も向上

お客様へ安心をお届けするためには、OKIグループだけでなく、お取引先における情報セキュリティの向上も必要であると考えています。そこで、重要秘密情報を提示しているお取引先においては、OKIが作成した情報セキュリティチェックリストに基づいたセルフチェックを実施していただいています。チェックリストは6分野、47項目からできており、情報セキュリティ環境の変化に応じて随時項目を見直しています。このチェック結果により、OKIグループとお取引先が状況や課題を共有し、次への

対策へつなげています。



情報セキュリティチェックリスト

## 高度化するセキュリティ事故への迅速対応に向けOKI-CSIRTを設置

2008年9月には、コンピュータセキュリティ事故への予防対策、事故発生時の対応力を強化するため、セキュリティ事故対応専門組織としてOKI-CSIRT(オキ・シーサート)を設置し、日本シーサート協議会に加盟しました。日本シーサート協議会は、日本で活動する組織内シーサート間の情報共有および連携を図り、セキュリティ事故対応力を高めることを目的とした団体です。OKI-CSIRTは、OKIグループ内で毎月のコンピュータウイルス関連レポートの提供や技術的支援を行っているほか、日本シーサート協議会においても、コンピュータウイルス対策ガイドラインの作成に関与するなど、課題共有と解決に貢献しています。今後は、OKIグループのお客様先で発生するセキュリティ事故にも技術的な支援が行える体制をめざし、お客様の信頼に応え、安心をご提供していきます。

## Voice Yi Yang



沖電気軟件技術(江蘇)有限公司  
販売本部SI事業部 課長  
(情報セキュリティ運用担当)

## 楊伊

中国では、コンピュータウイルスの検知内容が日本とは異なるため、2008年から中国独自の対策に切り替えて運用を開始しています。

対策を推進するうえで社内ユーザーとのコミュニケーションを密にするため、ヘルプデスクを中国に置き、検知されるウイルスの状況を各拠点のIT管理者と共有して、検知件数の減少に努めています。しかし、USBメモリのアクセスによるウイルス検知がまだ多いため、外部記憶媒体の利用制限と監視を充実させるため、中国語で利用可能なシステムの導入を進めています。

今後も、OKIグループとしての強固で安全なIT環境を維持すべく取り組んでいきます。

## Column

### お客様の「安心」に貢献する情報セキュリティ関連商品



#### セキュリティ機能に対応したA3カラー複合機

2008年10月に販売開始したオフィス向けA3カラー複合機「MC860dtn」「MC860dn」は、利用者ごとに利用可能な機能を制限できる「アクセス制限機能」や、ハードディスクに蓄積された印刷データを自動的に消去する「ジョブイレース機能」を備えているほか、「暗号化認証印刷機能」、「ログオン情報強制印刷機能」など、さまざまなセキュリティ機能を搭載しています。また、タッチパネルや音声案内機能の採用により、使いやすさも向上させています。

#### ファイアウォール機能により快適なLANシステムを提供

通信事業分野でグローバルな商品を手がけているOKIネットワークスでは、通信環境のセキュリティ向上ソリューションも提供しています。その一つ、アルバネットワーク社製無線機器「ARUBAシリーズ」は、モバイルコントローラのファイアウォール機能により、ユーザー単位でアクセス制御の設定ができ、社員の属性に応じた柔軟なアクセス制御や、ゲストへのインターネットサービスなどを実現。世界最高水準のセキュリティ機能とモビリティの提供を可能としています。